

高瀬神社 社報

越中一宮

第34号

平成24年7月1日

越中一宮高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影 南部写真館 南部 栄氏

社頭講話

「独り言」

宮司 藤井秀弘

美しい新緑が濃い青葉に変わり、夏本番となりました。小さな虫たちから大きな動物にいたるまで活発に活動しています。我が家は一級河川「庄川」が山々を経て砺波平野に流れ出たところ

の右岸の小高い所にあります。その更に高い場所に氏神様の雄神神社があります。谷間の平なところに氏子崇敬者の信仰を集め鎮座していますが、平成五年に老朽化した社殿を社有林の檜をもって新築しました。境内は杉の老木が枝を伸ばしていますが、これに混じって桜やツツジ、紫陽花など季節の花木も競い合っ

の行動に注意をはらいつつ、鳴きながら山のほうへ導き帰って行く姿を見ていると親子のあるべき姿、深い愛情を感じます。

どつしりとした古木の樹形や美しい花を咲かせる草木、また、可愛らしい動物たちなど、谷間の小さなお宮の神様を囲むように命を育んでいます。まさしく全てのものが神様に生かされていると実感できる空間がここにあります。大自然の中に神々がおられるので、自然の中に身を浸すことにより心が癒され、新しい力をいただけるのです。自然の素晴らしさや自然から教えられることが多いのは神々のなせる業だからなのです。森羅万象、神々が造化されたにもかかわらず、人間が支配する対象として自然を捉えています。地球の温暖化が叫ばれて二酸化炭素の削減をしようと全世界的に宣

伝されても自分に不都合があれば軽んじてしまう。現在の世界の風潮となっています。

先日、テレビ番組で白熊の住む北極の水が解け、白熊の生活環境が激変したためにこのまま推移すれば絶滅してしまうと報じていました。水があればアザラシなどの餌を捕りやすいのですが、氷がないと近づくこともできないのです。何十日も食事にありつけず子熊は餓死してしまっています。このような事態が起きているのに我々の生活はいかがでしょう。その日の食べるものにありつけず餓死したという話はほとんど聞きません。逆にグルメ番組で贅沢を煽るような状況です。節電のため、暑さ寒さを我慢しながら工夫して生活してはいますが、死ぬほど辛い生活ではないはず。白熊の気持ちになつてみる必要はないでしょうか。この世はすべて神様が造化されたものであるとしたならば、私たち人間も白熊も生きて行く権利は同じであるべきでしょう。

昨今の原子力発電所の再稼働をどうするかという問題。福島県原発事故で現在もひどい目にあっているのに一年足らずで再び危険を冒そうとしています。自然界に存在しているものによって人工的な手を加えることによって便利ではあるけれども危険なものに代えている。あくなき技術開発をどこまで進めるのか。本当にそれが人間のためになるのか。未来永劫に幸福な生活をおくることができるのか。よく考えてみる重大な時期になっているのです。自分のことはさておき、他人のため、共に生きる動物のためには何が出来るのか。このことを真剣に考えて実行しなければ地球環境は好転しないでしょう。今まさに我々の生き方が問われています。この社報で何度も提言しているとおり、自然の摂理に従い、自然を尊重し、自然に学び、自然と共に生活してゆくことこそ我々人間の行うべきことであろうと思うのです。

祭 事 暦

金 婚 祭

四月八日、「金婚祭」が斎行され、高瀬地区老人クラブ連合会（岩倉邦良会長）の会員約七十名の参列がありました。

宮司の祝詞奏上の後、神楽舞「胡蝶の舞」が奉奏され、金婚を迎えられたご夫婦には、金婚祝証と記念の銀杯が岩倉会長より贈呈されました。

祭典に先立ち清掃奉仕が行われ、その後、参集殿にて宮司による講演会が行われました。

（金婚者）

吉田信隆・晴美ご夫妻

（南砺市北市）



祈 年 穀 祭

六月十日、「祈年穀祭」が農協関係者をはじめ約四十名の参列により斎行されました。

ご神前では、まず忌火が点火され、宮司の祝詞奏上につづき砺波地区農業協同組合協議会（佐野日出男会長）からの幣帛が供えられ、参向使の沼田勝いなば農業協同組合常務理事により祭文が奏上されました。

巫女二名によりお神楽「浦安の舞」が奉奏され、責任役員・田中南砺市長に続き参列者が玉串を捧げ、今年も害虫の害無く豊作になるよう祈念しました。

ご本殿での祭典の後、「忌火」が宮司から参向使に手渡され、参列者が見守る中、境内大鳥居前に備えられた「かがり火」に点火されました。



また、多年にわたり農業の発展に寄与された方に「根尾宗四郎氏・上田又一氏遺徳顕彰事業」により農事功労表彰が送られました。

翌十一日には神輿が砺波地区の各農業協同組合を巡幸し、各農協では組合長以下職員総出で神輿を迎え、本年も豊作になるよう祈念しました。

（農事功労表彰）

元となみ野農業協同組合役員

川原 正彦氏（南砺市専勝寺）

（神輿渡御行程）

なんと農業協同組合

（南砺市金戸）

← 福光農業協同組合

（南砺市荒木）

← いなば農業協同組合

（小矢部市石動）

← となみ野農業協同組合

（砺波市宮沢町）

献 花 式

六月二十三・二十四日の両日、高瀬遺跡保存協会（竹村武夫会長）主催の「第三十八回菅浦まつり」が開催され、開催に先立ち、拜殿では「献花式」が斎行されました。

「菅蒲」がご神前に供えられ、関係者一同により「まつり」の成功を祈願しました。

祭典後、ボーイスカウトによる「オーブンングパレード」が高瀬遺跡まで行われ、主会場の「高瀬遺跡」では、氏子の雅楽会「鳳鳴クラブ」をはじめとする各種団体の清興があり、両日共梅雨の合間の好天に恵まれ、大勢の人で賑わいました。

また本年も、同時開催の「南砺吟道大会」に漢詩を寄稿された波多武烈氏に宮司より表彰状と記念品が贈呈されました。



シリーズ

高瀬の今昔

いまむかし

⑫

「井波風のこと」

雪に閉ざされた長い北陸の冬も終わりに近づく頃から五月の初旬にかけて、砺波地方では暖かい乾燥した南風が吹き始め、砺波平野をとりまく山々の雪も急に少なくなり春が訪れます。

この春を知らせる南風は「井波風」と呼ばれ、南砺市の八乙女山から吹き降ろし、高瀬神社の鎮座する旧井波町や庄川町、井口村、城端町にかけて風が強く、砺波から戸出と行くにしたがって弱くなり、やがて微風となります。南風の強い地帯の散村農家では、南側に良く茂った防風林



平成24年4月3日



昭和16年4月2日

が造られ、石垣や土堤をめぐらしています。本年四月、全国に甚大な被害をもたらした大風は記憶に新しいですが、当神社でも前日の四月二日から三日にかけて、この大風にあわせ井波風が吹き荒れ、御神木の杉をはじめ計十三本が倒木するなど

被害を受けました。

また、七十一年前の昭和十六年四月二日にも最大級の井波風が吹き、樹齢数百年の巨木が四十数本根返りし、拝殿などが潰されるなどの大きな被害があったと記録されています。

(権祢宜 長谷川宏幸記)

高瀬の豆知識

高瀬のご神鳥

当神社では、古来より「キジ」が、「ご神鳥(大神様のお使い)」とされ、かつては「ご神紋」に使用されておりました。

当地方では、「キジを虐めるとばちがあたる」と云い伝えられ、捕獲して口にすることはご法度とされた大切な鳥です。

去る六月四日、本殿裏に「キジ」が巣作りをし、抱卵しておりました。

神社職員・氏子が温かく見守り、六月二十二日頃には、無事に「ひな」が誕生し、巣替えをいたしました。

「ひな」が成長し、明年も巣作りするのを楽しみにしています。



献穀田だより

「御田植祭」斎行

本年も井波地域中核農業士協議会（池田喜昭会長）による「御田植祭」が、去る五月十九日、南砺市坪野の西村精志氏（本年奉耕者）の水田で斎行されました。

祭事では宮司「祝詞奏上」につづき神田が祓い清められ、五名の早乙女により四月二日に「種初清祓式」で祓い清められた、「コシヒカリ」の苗が



丁寧に植えられました。

九月中旬の「抜穂祭」で刈り取られる稲は御神前にお供えされるほか、伊勢の神宮に「懸税」として奉献されます。



早乙女奉仕者

- 西村 友美さん（社会人）
- 板橋ひかりさん（富山高専）
- 木村紗都美さん（高岡南高校）
- 沢田 夏海さん（福野高校）
- 木村 侑紀さん（井波中学）

杜のこむわい

素人達の大茶会

去る五月二十七日、茶道裏千家淡交会高岡支部となみ野青年部（岩崎正克部長）主催の「第二回素人達の大茶会」が開催されました。

昨年引き続き二回目となる今回は「ふるさと」をテーマに、「本席」では青年部員手作りの三助焼の茶碗を使い心尽くしの一服を、「お楽しみ席」



では雅楽の生演奏を聞きながら、お茶を楽しんでいただきました。

また、待合となる「ふれあいコーナー」には、五郎丸屋（小矢部市）の和菓子公開制作や茶室模型作りコーナー、髪結び・帯結びコーナーなども用意され、四百人を超す来場者をもてなしました。

協力 高瀬鳳鳴クラブ
地元青年有志一同

参拜日誌

(平成二十四年三月～五月) (敬称略)

【三月】

- 四日 埼玉県神社庁入間支部 (第寿班)七十三名
- 井波観光ボランティア研修会 四十名
- 十一日 山梨県神社庁南都留支部 支部長 渡辺主計 以下一〇二名
- 大正琴花びらの会(奉納演奏) 四十七名
- 十二日 埼玉県神社庁入間支部 (第五班)四十六名
- 十九日 富山県西部森林組合砺波支所 (安全祈願)四十九名
- 二十六日 (株)キタニ(新入社員奉告) 八名

【四月】

- 二日 献穀田種粉清祓式
- 五日 南砺市シルバー人材センター (安全祈願)四十名
- 六日 南砺市交通安全協会 (春の交通安全祈願祭)
- 八日 氏子清掃奉仕(村総出)

【五月】

- 高瀬地区老人クラブ連合会 (金婚奉告祭)(清掃奉仕)
- 十三日 立正佼成会(清掃奉仕)
- 二十七日 パルスエンジニアリング(株) (創立記念日奉告)
- 十三日 立正佼成会(清掃奉仕)
- 十五日 庄川SC安全協議会三十一名
- 十六日 神社庁砺波支部研修会
- 二十日 中郷琴平講(東京都青梅市) 二十名
- 二十七日 第二回素人達の大茶会 四〇〇名
- 二十八日 おがやっ子(古希奉告) 代表 坂下政和 以下十名
- 二十九日 上地八幡宮 宮司 大須賀久人 以下八十名
- 富山県西部森林組合利賀支所 五十名(安全祈願)

団体参拜のご案内

事業所の安全祈願・創立記念日等の各種祈願を随時受け付けております。
不明な点は社務所までおたずね下さい。
(初穂料) 一〇、〇〇〇円)

ご結婚おめでとうございます

昨年十二月から本年五月まで御婚礼の御儀を執り行われた皆様です。
(挙式日、時間順)

(十二月)

- 十日 石村 貴浩 淳子 夫婦
- 十一日 中沖 慶太 美香 夫婦

(二月)

- 二十五日 松川 勲 麻里 夫婦

(三月)

- 十七日 吉田 司 千栄子 夫婦
- 二十日 羽倉 正人 貴子 夫婦

- 二十四日 前田 洋儀 絃子 夫婦

(四月)

- 七日 ダイニタードレタ 紀子 夫婦
- 八日 長崎 努 奈緒 夫婦

- 十四日 橋爪 和也 牧子 夫婦
- 二十一日 中坪 裕善 友美 夫婦

(五月)

- 二十九日 北村 夏樹 亜衣 夫婦
- 鎌田 知直 美紀 夫婦

- 五日 野村 宜弘 佳緒理 夫婦
- 吉田 茂兼 歩美 夫婦

- 十九日 糸毛 弘樹 亜李沙 夫婦

ご新郎ご新婦の末永いご多幸とご両家益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

ご案内

七夕祭

八月七日(火)

午後三時より齋行

短冊配布期間七月十四日より
短冊は外拝殿に置いてあります。願い事を
書いて笹に下
げて下さい。
どうぞご家
族お揃いでご
参拝下さい。



例祭

九月十三日(木)

午前十時より齋行

ご本社につ
びき功霊殿大
祭を齋行いた
します。

皆様おそろ
いでご参拝下
さい。



第五十回奉納剣道大会

九月十七日(祝)

午前九時より

奉告祭ののち、境内にて開催



します。
砺波地区内
の小中学生・
高校生剣士の
熱戦が展開さ
れます。応援
をお願いまし
ます。

観月祭

九月二十九日(土)

午後六時より



第三十九回献茶式

十月二十一日(日)

午前十時齋行

(お茶席・二席)

午前九時

午後二時三十分

(茶券)

一枚三千円

(短冊・点心付)



七五三詣

本年は次の通りです

- 七歳(女子) 平成十八年生
- 五歳(男子) 平成二十年生
- 三歳(男女) 平成二十二年生

元服祝(男子)

十五歳(平成十年生)

髪上祝(女子)

十三歳(平成十二年生)

いぬ 戌の日(七月〜十二月)

- (七月) 十二日・二十四日
 - (八月) 五日・十七日・二十九日
 - (九月) 十日・二十二日
 - (十月) 四日・十六日・二十八日
 - (十一月) 九日・二十一日
 - (十二月) 三日・十五日・二十八日
- 腹帯のお祓いも行いますのでご持参下さい。

ご祈禱

家内安全・交通安全・初宮詣・
厄除・人生儀礼など「御祈禱」
は毎日午前八時三十分より午後
四時三十分まで随時受け付けて
おります。

祭典・結婚式等で御奉仕でき
ない時間帯もありますので、事前
に社務所までおたずね下さい。

奉納

○「境内剪定作業」

小矢部市津沢

(株)越路ガーデン

代表取締役 西尾倫顕

以下十二名

平成二十四年六月八日

※恒例の奉仕作業ですが、本年もさ
わやかな境内にして頂きました。

辞令

黒田 三津子

願いにより事務員を免ずる

(平成二十四年六月三十日付)

編集後記

今年の梅雨は独特のじじめめ
さが無く、日々快適に過ごして
おりますが、水不足により農作
物も元気が無く、今後の生育が
心配されます。

これから暑い夏を迎えます
が、氏子・崇敬者の皆様にはご
自愛いただき、日々清々しくお
過ごしいただきますこと、衷心
よりご祈念申し上げます。

【表紙写真】

境内に咲く「葵」

発行日 平成二十四年七月一日 発行所 越中一宮高瀬神社社務所

〒932-0103 富山県南砺市高瀬二九

TEL 〇七六三 八二〇九三二 FAX 〇七六三 八二一三〇四

編集人 浦

泰宏

印刷所 牧印刷株式会社



結びの杜の
プリンセス

高瀬神社のプリンセスフェア 入場無料

模擬挙式&披露宴 午後1時〜

- ◆ドレス試着&写真撮影
- ◆ネイルアート体験
- ◆プロのメイクアドバイザー
- ◆カラー診断など、

女の子に嬉しいイベントいろいろ企画中!

ご来場頂いた方全員に

特製スイーツ試食会

お問い合わせは ☎(0763)8210932

越中一宮 高瀬神社

7月29日 [日]
午前10時〜午後5時



昨今の結婚式事情・・・

「水合せの儀」

皆ながおじいちゃん、おばあちゃん世代、親世代、子世代と、さまざまな世代が一緒に生活していた一昔前。

ご近所にお嫁さんが来ると聞くと、皆さんそのお宅にお嫁さんを見に行きました。私も、小さな頃、祖母について見に行った記憶が今でもあります。

お嫁さんが、新郎家の玄関で盃にはいったお水を飲む姿が、幼心にとても素敵に見えました。大人になって、その意味を知りとても感慨深い気持ちになりました。

水合わせの儀式は、新郎家の水と、新婦家の水を合わせる盃の儀式です。新婦が新郎家の家風に早く馴染むように、そして新婦が二度と実家に戻ることがないようにと願い盃を景気よく割ります。この盃の割れる音がピンと張り詰めた緊張の空気の中、心に響き渡りました。伝統の中に、一生に一度の大切な儀式としての重みと、結婚に対する気構えが刻まれている事を感じます。

越中一宮高瀬神社にお仕えて60年余り 皆様から愛される **南部スタジオ** (神社専属)



婚礼から初宮、七五三と
家族の写真物語を
お撮り致します。

—— 写真は一生の宝 ——

南部スタジオ

南砺市山下27 TEL 0763-82-0130
FAX 0763-82-6954